

Alterations in the gut microbiome in patients with esophageal carcinoma in response to esophagectomy and neoadjuvant treatment

蓮田, 博文

<https://hdl.handle.net/2324/6787492>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

| | |
|--------|--|
| 氏名 | 蓮田 博文 |
| 論文名 | Alterations in the gut microbiome in patients with esophageal carcinoma in response to esophagectomy and neoadjuvant treatment |
| 論文調査委員 | 主査 九州大学 教授 江藤 正俊 副査 九州大学 教授 林 哲也 副査 九州大学 教授 加藤 聖子 |

論文審査の結果の要旨

食道扁平上皮癌の腸内細菌叢を解析することは、今後の治療戦略のためにも重要である。本研究の目的は食道扁平上皮癌患者の腸内細菌叢を明らかにし、治療期間中での菌構成の変動を解明することである。方法は、合計21人の食道扁平上皮癌患者を対象とし、術前治療から術後までの期間で合計5回の菌叢変動の観察を行った。10人の健常人が対照群として用いられた。糞便サンプルを採取し、16S rRNAの解析を行った。

その結果、食道癌患者は健常人と比較し、治療前より α 多様性と β 多様性が異なる状態であった。食道癌患者は通性嫌気性菌である*Streptococcus*属の相対存在量が高く、一方で偏性嫌気性菌である*Faecalibacterium*属の相対存在量は低かった。 α 多様性と β 多様性は術前治療期間中では変化せず、術後に顕著に変化した。術後に*Streptococcus*属の相対存在量はさらに増加し、*Faecalibacterium*属はさらに低下した。結論として、食道癌患者の腸内細菌叢は手術治療により変化することが示された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。